

# 第3回 学校運営協議会

# 和歌山さくら支援学校



平成30年11月27日(火)和歌山さくら支援学校では、第3回の学校運営協議会が開かれました。学校運営委員のメンバーは8名、学校側からの参加を含めて16名でスタートしました。校長から午前中に「さくらフェローの会」が開催されたことも含め、前回から協議中の高等部作業学習の販売ルート拡大の必要性について話しがありました。協議は、作業学習製品(本物)に対する姿勢や技術について活発な意見交換がありました。物づくり、販売を通してコミュニケーション力や自己有用感を高めることを確認し、各企業からのアドバイスや具体的な協力体制について深めることができました。

運営協議会開催挨拶



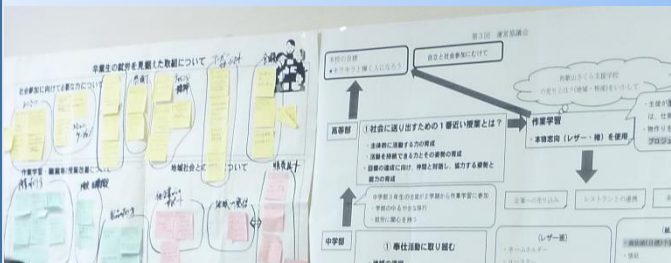
作業班販路拡大等の必要性について説明



本校の作業学習の製品づくり(本物)をなぜ、求めるのか、教育の視点とは違う企業側からの質問や意見等活発な協議が行われた。作業学習では、物づくりを通して販売を行い、コミュニケーション力や自己有用感を高めることが大切であることを確認した。その上で販売場所提供の協力や、積極的な製品の売り込みを生徒たちと行うこと、製品としてブランドのシールを作成することが必要であるとアドバイスを受けた。



学校を活性化・企業からのサポート依頼について



前回のKJ法をまとめ、方向性を出す



この当日の午前中は、「さくらフェローの会」が開催されたため直接作業学習を見学して頂いた委員の方もいた中で、生徒たちの緊張した様子、頑張る姿を見て頂いた。進路部長が外部の方の必要性を説明し授業のアドバイザーとして来校してもらえないか等の依頼をした。それに賛同してくれる委員の方もあり具体的な取り組みを学部で検討しながら進めていきたい。